

令和4年度 宇都宮市立泉が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤に、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献する生徒を育成する。

(2) 具体目標（目指す生徒像）

- ・心豊かで思いやりのある生徒
- ・よく考え進んで行動できる生徒
- ・心身ともに健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 学習活動、生徒会活動、部活動の充実した学校を目指す。
- (2) あいさつができ、いじめのない、居がいのある学校を目指す。
- (3) 安全で環境整備の行き届いた学校を目指す。
- (4) 保護者や地域から信頼される、開かれた学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○体力の向上を図り、主体的に行動できる能力・態度の育成に努める。
- (2) ○心豊かな人間性の育成に努める。
- (3) 確かな学力の定着を図り、学習意欲を高める授業の確立に努める。
- (4) よき伝統と校風の樹立に努める。
- (5) 小中一貫教育と地域学校園の取組の円滑な推進に努める。
- (6) 学校内外の安全管理と地域の環境整備に努める。
- (7) 教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。

[泉が丘地域学校園教育ビジョン]

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成
～ 学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉 ～

4 教育課程編成の方針

- (1) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和4年度指導の重点」を踏まえ、本校教育目標が達成できるよう全職員の理解と協力によって編成する。
- (2) 新中学校学習指導要領改訂のポイントである「社会に開かれた教育課程」「これからの時代に求められる資質・能力」「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学び」を踏まえる。
さらに、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るため、教育課程全体において、教科横断的な視点からの指導のねらいの具体化や、教科等間の指導の関連付けなどを推進する。
- (3) 「GIGAスクール構想」推進に向けて1人1台端末の本格的な活用を積極的に進めていく。
- (4) 生徒の調和のとれた育成を目指し、学校の実態及び生徒の心身の発達段階を十分に考慮する。
- (5) 宇都宮市の小中一貫教育の趣旨を生かし、泉が丘地域学校園内の小学校と連携しながら、創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを進めるような編成を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・専門職としての自覚を高め、常に組織的な対応に努める。
- ・子どもと向き合う時間を確保するために、校務の工夫改善及びスリム化を図る。
- ・教職員の時間管理を徹底し、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【 学 習 指 導 】

○基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力や、自分で考え判断し、表現する力を育成するとともに、目標を持ち、自ら学ぶ意欲を育む。

【児童生徒指導】

○心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する。

- ・不登校、いじめの未然防止を図るため教育相談を充実させるとともに、不登校の解消を図るため生徒個々の状況にあわせて柔軟に対応する。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

- ・自己の体力の現状を具体的に把握させ、積極的に自己の体力を伸ばしていこうとする態度を育てる。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	① 導入の工夫により、生徒が興味・関心をもって授業に臨めるようにするとともに、ねらいを明確に提示する。 ② <u>授業で何が分かったか、何ができるようになったかなどを確認するとともに、自身の学びの過程を振り返り、学習の価値を自覚させるなど、授業の終末の充実を図る。</u> ③ <u>家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導と啓発を行う。</u>	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を1.8ポイント下回る90.7%であったが、数値目標をわずかに上回った。 【次年度の方針】 ・各教科の授業の中で、グループ学習の場を意図的に設定し、積極的な学習態度を育成する。 ・生徒が自分の意見を自由に発表できる学級の雰囲気づくりを重点的に実践する。
	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	① 学校行事等との関連を図った別の教科道徳の授業を実施し、人権を尊重する心や思いやりの心を育てる。 ② 人権教育や福祉教育の充実を図り、障がいをもった方や高齢者への理解と共生への意識を高める。 ③ 「 <u>相手がどのような気持ちか</u> 」を考える力、共感できる力を重視し、常に <u>感謝の気持ちを持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。</u>	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.0ポイント上回る91.8%で、数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・相手の気持ちを考え、共感できる力を身に着けるとともに、常に感謝の気持ちが持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。
	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	① 入学時における新入生に対する指導を徹底するとともに、学校の決まりに関する教職員の共通理解を図る。 ② 生徒指導部を中心とした指導を常日頃から実施し、生徒の規範意識を高める。 ③ <u>きまりやマナーを守って学校生活を送っていることを、教職員が称賛したり、生徒相互に認め合ったりする機会を数多く設け、実践意欲を高める。</u>	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を0.6ポイント下回る87.2%で、数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・学校の決まりに関する教職員の共通理解を図り、生徒指導部を中心とした指導を常日頃から実施し、生徒の規範意識をより高めていく。

<p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒会を中心としてあいさつ運動や、地域学校園の小中合同あいさつ運動の取組を発展させ、あいさつの習慣化を図る。</p> <p>② 教職員から率先してあいさつを行うことで、生徒のあいさつへの意識を高める。</p> <p>③ 登下校指導を通して、地域や小学校との結びつきを強め、地域全体であいさつができる雰囲気作りを行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年を0.6ポイント上回る95.6%で、数値目標を上回った。 <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員から率先してあいさつを行うとともに、生徒会を中心としたあいさつ運動や小中合同あいさつ運動の取組を充実させるなど、あいさつの励行に努める。
<p>A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「キャリア・パスポート」の効果的な活用法について、地域学校園内の小学校との連携を図り、中学校卒業後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるように創意工夫を活かした形で整備を進める。</p> <p>② 学習や部活動、学校行事等に目標をもって取り組ませ、振り返りを行い次に生かせるようにする。</p> <p>③ <u>目標に向けて努力することの素晴らしさを、全教育活動の中で伝え、目標達成に向け努力する生徒を認める。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.4ポイント下回る86.3%で、数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けて、努力している過程を褒める機会を増やすことで、より大きな達成感と満足感を得ることができるよう支援する。
<p>A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① <u>学級活動、給食指導等で、栄養バランスが大切であることを理解させ、地域学校園お弁当の日の指導を通して、実践化を図る。</u></p> <p>② 小中一貫の検定や保健体育の授業を通して、運動に対する意識を高めていく。</p> <p>③ <u>熱中症や光化学スモッグ注意報をはじめとする各種の情報をもとのに的確に判断し行動するようにする。</u></p> <p>④ 生徒会専門委員会（保健委員会、給食委員会、安全委員会、体育委員会）活動の更なる活性化を図り、生徒の健康や安全に対する意識を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を0.8ポイント下回る93.6%であったが、数値目標を上回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでの結果をもとに、自己の体力や日々の生活を振り返らせ、より望ましい運動習慣の取組を促す。 ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育むための基礎を培う。
<p>A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 地域や各分野で活躍する人の生き方に触れる機会を設け、働く意味を各自に考えさせる。</p> <p>② 泉が丘地区・今泉地区両コミュニティーセンターとの連携を密にし、ボランティア活動への参加が、地域社会への大きな貢献につながっていることを自覚させるとともに、生徒の活動を積極的に発信する。</p> <p>③ 総合的な学習や学級活動を通して、自己を見つめ、社会のためにできることについて考えさせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.4ポイント下回る86.3%で、数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区コミュニティーセンターと連携しながら、各種ボランティア活動への参加を通して、地域社会の一員であることの自覚や自己有用感を高めさせる。

<p>A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 恥ずかしがらないで、まず声に出していけるように、非言語コミュニケーションを英語の授業以外でも積極的に取り入れる。</p> <p>② 教科書の言語材料を活用し、リスニングやスピーキングの練習を丁寧に、さまざまな音調に慣れさせる。</p> <p>③ 学校生活や修学旅行で、積極的に英語で話しかけることができる態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を1.4ポイント下回る87.2%で、数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした授業を展開し、英語を即興で話す場面や教師と生徒、生徒同士のやり取りがある場面設定を工夫して、段階的に指導する。
<p>A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 社会科や理科、総合的な学習の中で宇都宮市の地域教材を扱うことで、地域への理解を深める。</p> <p>② 地域のボランティア活動に積極的に参加させることにより、地域や宇都宮の良さに触れさせる。</p> <p>③ 大谷石文化が日本遺産の認定を受けたことや多くの〇〇の街宇都宮に触れさせることで、宇都宮の良さに気づかせる機会を増やせるように、図書だよりでの紹介や学校内外の環境整備を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を0.6ポイント上回る80.5%で、数値目標をわずかに上回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の自然と文化的な魅力の発見や認識、地域住民との関わり等を通して、宇都宮の魅力と良さに気付かせる機会を増やせるようにする。
<p>A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>WIFI環境の有効活用やタブレットの利用方法等について研修を進め、各教科の授業や総合的な学習に、積極的にICT機器を活用した授業を展開する。</u></p> <p>② 総合的な学習や各教科の授業で、インターネットやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを活用して、学習を進める機会を増やす。</p> <p>③ <u>学校図書館を調べ学習のベースとして活用できるように、教育課程と関連付けて図書の準備を行う。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を5.1ポイント下回る81.1%であったが、数値目標を上回った。 <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で積極的にICT機器を活用した授業を展開するとともに、臨時の学年・学校休業においても、臨機応変に対応できる体制を構築する。
<p>A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 人権教育や福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者への理解と共生への意識を高める。【A2再掲】</p> <p>② 「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力を重視し、常に感謝の気持ちを持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。【A2再掲】</p> <p>③ プロムナードや校舎前を歩く敬老者に、積極的にあいさつしたり話しかけたりできるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.0ポイント上回る91.8%で、数値目標を大きく上回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考え、共感できる力を身に着け、常に感謝の気持ちを持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。

	<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「持続可能な開発目標」とは具体的にどのようなものなのか、SDGsの「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」の理解を深める。</p> <p>② 生徒会の各専門委員会の活動の中で、持続可能な社会実現のためにできることを考え行動に移させる。</p> <p>③ 社会科や理科、技術・家庭の授業において、エネルギーやリサイクル等についての理解を深める。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.3ポイント下回る76.9%で、数値目標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や課外活動での体験学習等を通して、社会課題と向き合いながら、日常生活の中で自分たちにできることを考え、実践できるようにする。
	<p>B1 生徒は自分の安全を考え行動している。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒会専門員会（保健委員会、給食委員会、安全委員会、体育委員会）の更なる活性化を図り、生徒の健康や安全に対する意識を高める。【A6再掲】</p> <p>② 日頃の安全指導を充実させ、生命や安全への意識を高める。</p> <p>③ 学校内外の危険箇所等について、生徒が自ら意識して改善していこうとする意欲を高める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を0.5ポイント上回る93.1%で、数値目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃からの安全指導や避難訓練の実施により、生命や安全に関する意識の高揚を図り、さらに指導を充実させていく。
目指す学校の姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。</u></p> <p>② 特別支援学級の生徒はもとより、通常の学級の生徒の実態もより丁寧に把握し、個々のニーズや実情に合った支援計画を作成して、保護者等と合意形成を図りながら、個別の支援が必要な生徒への合理的な配慮を行う。</p> <p>③ 個々に必要な支援を的確に捉え、かがやきルームや日本語教室の適正な運用を行う。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答の割合は、昨年度を2.5ポイント上回る88.2%で、数値目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級の実態や生徒の障がいの程度をより丁寧に把握するとともに、個々のニーズや実情に合った教育課程を検討し、保護者と合意形成を図りながら対応を進めていく。
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 「いじめアンケート」や教育相談の実施、スタンダードダイアリーの活用等、いじめ防止対策についての取組を継続し、会議等での情報交換により、いじめの早期発見に努める。</p> <p>② 「いじめゼロ強調月間」や日常において、いじめの未然防止を行うとともに「いじめアンケート」を実施し、必要に応じて適切な指導・助言を行い、自己肯定感、他者信頼感を育てる。</p> <p>③ 学校の取組や生徒の思い等を、積極的に情報発信していくとともに、学校行事や生徒会活動等と関連づけて理解を深めてもらえるようにする。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答の割合は、生徒が95.4%で数値目標を上回ったが、保護者は76.6%で数値目標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや教育相談の実施、スタンダードダイアリーの活用等、いじめ防止対策についての取組を継続するとともに、教職員間で頻繁に情報交換を行い、いじめの早期発見や組織的対応に努める。

<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>生徒が自己肯定感をもって、居がいのある学級づくりを目指し、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。</u></p> <p>② 特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。【A13 再掲】</p> <p>③ 教育相談、各種アンケート、Q U 調査を活用し、不適応傾向のある生徒の早期発見と早期対応に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を8.1ポイント上回る89.1%で、数値目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から共感的な人間関係づくりに努めながら、自己有用感を味わわせるとともに、学校全体で課題を共有して協働で問題解決にあたる。
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、互いの国籍や文化の違いを認め合える日常的な指導を行う。</p> <p>② 日本語教室の指導者との緊密な連携を図り、個に応じた適切な支援を行えるようする。</p> <p>③ 外国人生徒への共通理解を図り、必要なニーズに応じた支援を、全校体制で行えるようにする。特に、進路指導については、外部との連携を深める</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答の割合は、昨年度を2.5ポイント上回る88.2%で、数値目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人生徒等の実態に応じて、進路指導等における保護者への対応等も含めて、適切な支援を進める。
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>学校行事・生徒会行事・各種委員会等において、生徒が活躍する姿を称賛し、内外に知らせていくことで、生徒一人一人に自信を持たせ、より積極的な活動を促していく。</u></p> <p>② 生徒の発案を生かし、生徒会執行部や各種委員会等で積極的に活躍できる場を積極的に設定し、賞賛する。</p> <p>③ 各種学校行事等において生徒主体の活動を多くし、生き生きとした雰囲気を醸成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を2.2ポイント上回る90.5%で、数値目標を大きく上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や生徒会行事において、I C T 機器を有効に活用することで、生徒がいいききと活動できる取組を推進する。 生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定し、より達成感を得られるようにする。
<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 一人一授業における振り返りを大切にし、教員の更なる授業力向上に努めるとともに、タブレット等のI C T を効果的に活用した授業づくりを推進する。</p> <p>② <u>探究型の授業や言語活動の充実を図るとともに、ねらいの提示と振り返る活動により、生徒一人一人が主体的に取り組める授業づくりを進める。</u></p> <p>③ 教科・学年・クラスの実態に応じて、習熟度別学習やT・Tを適宜取り入れた授業を行い、個に応じた指導に当たる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答の割合は、昨年度を2.8ポイント下回る90.9%であったが、数値目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一授業を実施することにより、さらに教員の授業力向上を図るための実践を推進する。 I C T 機器の活用を通して、生徒が積極的に自分の考えを表現したり、意見を交換したりすることで、思考力や表現力を高めて学力の向上を図る。

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① SC、MS、ALT 等をとの連携・協力を図り、教職員の業務改善を図るために学校の教育活動において有効に活用する。</p> <p>② 週1回及び月1回の学校リフレッシュデーを継続することにより、教職員の学校業務に対する意識を変えていく。</p> <p>③ 校務分掌や学年の枠を超えて、今必要な仕事は何かを考え、協力できるような学校風土づくりを行う。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、昨年度を15.1ポイント上回る79.4%であったが、数値目標をわずかに下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員間の信頼関係をより一層深め、教職員が一丸となって、生徒のより良い成長を目指して教育にあたることのできる学校風土づくりに取り組む。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 出退勤管理により、一人一人が勤務時間を意識し、校務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 校務分掌のデータの再整理を行い、全職員がポータルサイトからすぐに活用し、校務を効率的に処理できるシステム構築を進める。</p> <p>③ 学習情報システムをはじめとした、学校に導入されているシステムの効果的な活用を進める。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、昨年度を15.8ポイント上回る70.6%であったが、数値目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員一人一人の意識をより一層高めるとともに、校務分掌を整理するなど効率的に事務処理ができるシステムの構築に努める。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 越戸川せせらぎ通りや駅東公園清掃美化活動の充実をはかるために、継続して小学校との連携を図っていく。</p> <p>② 事務・図書館司書・養護教諭を中心に、地域学校園相互の支援体制を充実させる。</p> <p>③ 乗り入れ授業において、小学校との連絡、調整を密にして、学習指導や生徒指導に関する各部会の活動の活性化を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を2.2ポイント上回る83.7%であったが、数値目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・小学校と連携しながら、越戸川せせらぎ通りや駅東公園の清掃美化活動の継続と活動内容の充実を図る。 ・乗り入れ授業において、小学校との連絡や調整を密にし、活動の活性化を推進する。</p>
<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 泉が丘地域協議会を定期的に開催し、保護者や地域住民の意見を学校経営に生かす。</p> <p>② 学校ボランティアを随時募集し、学校の教育活動への積極的な参加を促していく。</p> <p>③ 学区内のコミュニティーセンターとの連携を密に図り、学校と地域が共に発展していける関係づくりに努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を6.5ポイント上回る84.1%であったが、数値目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域コーディネーターや地区コミュニティーセンターと連携を図り、学校支援ボランティアや地域人材を活用した諸活動を推進する。</p>

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 家庭や地域社会との連携を図り、各種のボランティア活動に積極的に参加させる。【A7再掲】</p> <p>② 地域コーディネーターやコミュニティーセンターとの連携を図り、学校支援ボランティアや地域人材を活用した諸活動を推進する。</p> <p>③ 学校だよりや地域協議会だよりで、学校の取組や生徒の様子などを発信する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を6.5ポイント上回る84.1%であったが、数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校と共に、地域清掃美化活動を継続して実施していく。 地域の行事において、生徒が積極的にボランティア活動に参加することを継続して推進していく。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 地域住民肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 定期的な安全点検のみならず、日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者それぞれが気づいた点を共有し、改善していけるようにする。</p> <p>② 防火・防災計画、危機管理マニュアルに基づき、不測の事態に対しても随時対応できるようにする。</p> <p>③ 友遊クラブとの密な連携を図り、学校開放を円滑に進めることができるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の肯定的回答の割合は、昨年度を25.0ポイント上回る100%で、数値目標を大きく上回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者が気付いた情報を共有し、不備がある場合には素早く対処して改善する。
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>WIFI環境の有効活用やタブレットの利用方法等について研修を進め、各教科の授業や総合的な学習に、積極的にICT機器を活用した授業を展開する。【A10再掲】</u></p> <p>② 総合的な学習や各教科の授業で、インターネットやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを活用して、学習を進める機会を増やす。【A10再掲】</p> <p>③ <u>学校図書館を調べ学習のベースとして活用できるように、教育課程と関連付けて図書の準備を行う。【A10再掲】</u></p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答の割合は、昨年度を4.9ポイント上回る76.4%であったが、数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のみならず、生徒会活動や学校行事等、教育活動における様々な場面での活用を推進する。 ICT機器を有効活用するために、管理を徹底しながら生徒が活用しやすい環境づくりを促進する。
<p>B2 生徒は、学習に対する「振り返り」を適切に行うとともに、家庭学習の習慣をしっかりと身に付け、意欲的・主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒肯定回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 定期テスト後や長期休業前に、自己評価をさせることにより、学習への取組について、生徒自身に振り返らせ、自分自身の課題を把握し、今後の学習に対する意欲を育てていく。</p> <p>② 漢字と英単語の宿題プリントを継続し、家庭学習の習慣化への意識付けを行う。</p> <p>③ 授業における「目標」と「振り返り」の提示と時間の確保を本校の課題とし、「一人一授業」等の公開授業をとおしてさらに徹底するように啓発を進めていく。</p> <p>④ <u>家庭学習の質の向上を目指し、学級担任だけでなく、全教職員が生徒の家庭学習を支援していけるようにする。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答の割合は、生徒が88.5%、保護者が71.0%で、共に数値目標を下回った。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化に向けた取組を継続するとともに、努力の成果が認められる機会や方法を工夫し、生徒一人一人に応じた家庭学習が進められるように支援する。

<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 学校は地域の小学校や高等学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒・保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別の教科道徳や学級活動、総合的な学習の時間と連携を図り、生徒の意識を向上させ、既存のボランティア活動を生徒に一般公募する。</p> <p>② 学級活動や総合的な学習の時間などで、どのようなボランティア活動ができるかを考える機会を設け、実践できるようにする。</p> <p>③ 小・中・高校の連携やボランティア活動の様子を積極的に情報発信することで、本校の取組を広く周知することで、生徒の良さを地域に伝えていけるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答の割合は、生徒が71.4%、保護者が76.0%で、共に数値目標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動や道徳、総合的な学習の時間を活用して、生徒のボランティアに対する意識を向上させる。 地区コミュニティーセンターと連携しながら、積極的にボランティア活動の機会を設ける。
------------------	---	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校行事や生徒会活動、各種大会・コンクール等が従来の活動に戻つつある中、生徒のアンケート結果では、市内中学校平均や前年度と比較しても大きな差はなかった。
- ・質問事項 A9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」、A15「教職員は、不登校を生まないように、一人一人の生徒を大切に、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている」、A18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」、A22A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」における保護者の肯定的割合は、前年度を5ポイント以上、上回っている。
- ・A2A11「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」、A4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」、A15「教職員は、不登校を生まないように、一人一人の生徒を大切に、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている」、A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」、A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」における教職員の肯定的割合は、前年度を10ポイント以上大きく上回っている。
- ・質問事項 A4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」における生徒の肯定的割合が95.6%であるのに対し、教職員の肯定的回答は70.6%と低く、市内中学校平均と比較しても16.7ポイント下回っている。今後も学校全体として、改善に向けた取組が必要である。
- 質問事項 A21「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」における肯定的回答は、昨年度より教職員が0.3ポイント上回り、生徒が0.4ポイント下回っている。今後、より充実した取組となるように地域学校園内で連携を図りながら検討していきたい。

7 学校関係者評価

- ・生徒は、学習・生活ともに落ち着いて取り組んでいると思う。
- ・あいさつについては、今後も地域・学校園も含めて継続した取組をしていってほしい。
- ・次年度については、コロナも収束する方向であると思うので、様々な形で学校運営の協力に努めていきたい。
- ・小中一貫地域学校園の取組については、地域住民の評価はおおむね良好であり、あたたかく見守っている様子が伺える。
- ・質問事項の中で、教職員と生徒の回答に大きな差がある項目もあるように、それぞれの立場、環境などの影響によって、捉え方は様々なことがわかった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校行事や生徒会行事では、今後もICT機器を有効活用することで、生徒がいきいきと活動できる取組を推進していく。
- ・いじめや不登校の未然防止に向けて、スクールカウンセラーやメンタルサポーターをはじめ、外部機関と連携を図りながら学校全体で早期発見・早期対応ができる体制を強化していく。
- あいさつをより一層定着させるために、日頃の教育活動の中から生徒の意識を高めるよう努めていくとともに、地域の小学校とも連携を図りながら、生徒会を中心としたあいさつ運動を活性化していく。
- ・生徒一人一人に寄り添った指導を通して、豊かな人間性の育成や確かな学力の定着を目指すとともに、生徒、保護者、地域の信頼を更に高めていきたい。

